



2008年12月21日(日)
東京国際フォーラム (ホールD7)



環境省エコインターンシッププログラム2008 活動報告

「Face to Faceのコミュニケーション」

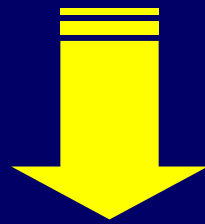
住友化学(株)

吉本皓亮
若林俊子



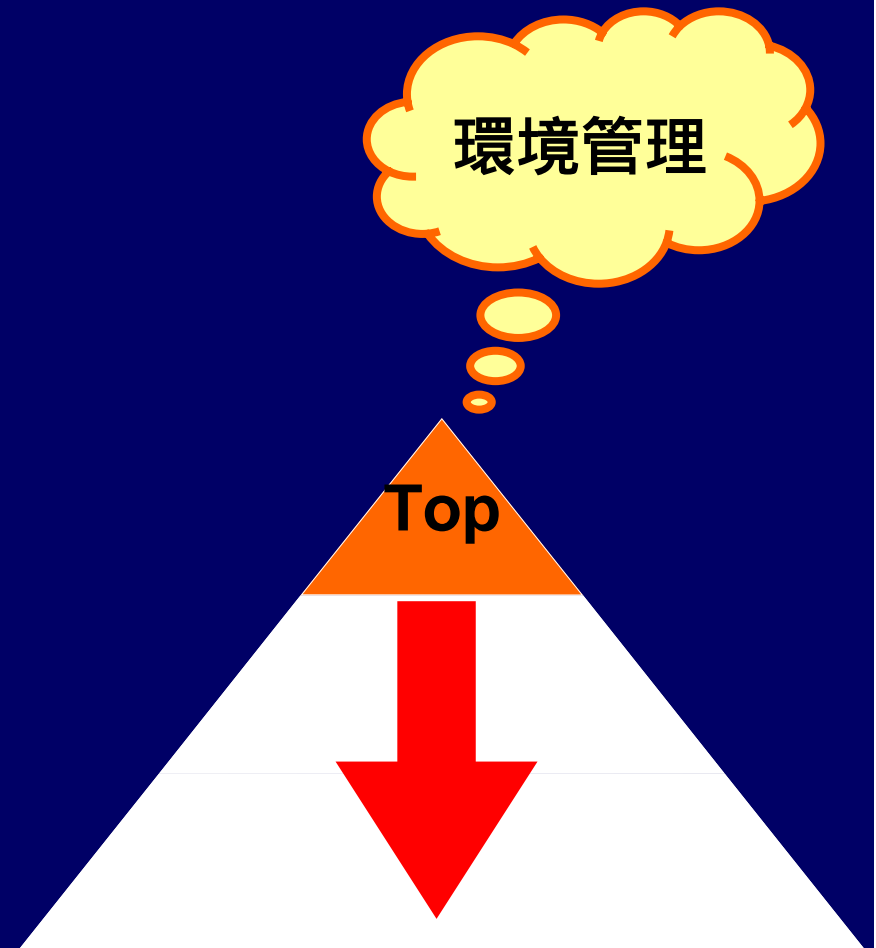
企業が行う環境管理

一般的に、
企業が行う環境管理といえば...



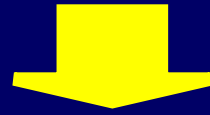
トップダウンで実行するもの

- 法規制の遵守
- ISO14001
- レスポンシブル・ケア活動

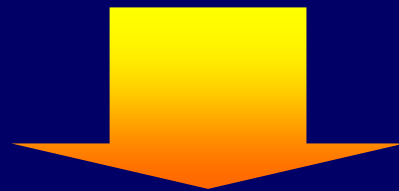


エコインターンシップで学んだこと

エコインターンシップ参加前は、トップダウンによる環境管理がすべてだと思っていたが...



実際にはトップダウンだけでなく、環境管理部門が各部署と話し合い、コミュニケーションを取りながら行う環境管理もあり、非常に重要であることを知った




Face to Face のコミュニケーション
(双方向対話)

Face to Faceのコミュニケーション

1. 一方通行の押し付けではない
 - 双方向の対話
2. 顔と顔を向き合わせて、お互いの本音をぶつけ合う
 - 生のコミュニケーション



自らが伝えたいことと相手が求めていることを
常に意識し、近づける努力をする



住友化学では双方向対話が実践されていた

具体的な活動

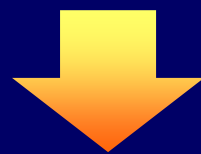
< 社内活動 >

❖ 省エネパトロール

環境管理部門担当者が各部署へ直接出向いて
意見交換を行う

❖ CSRの目標設定

一方的に目標を押し付けるのではなく、
本社と各工場の担当者の話し合いによって目標を設定



社外におけるコミュニケーションにも活用

< 社外活動 >

❖ 住民との対話集会

一方的に話すのではなく、
お互いの本音をぶつけ合い、相互理解を得る



第5回JRCC大阪地域対話(2008年11月19日)



住民

企業

コミュニケーションを円滑に行うために、
環境リスクに基づく化学物質管理を行う

環境リスクに基づく化学物質管理

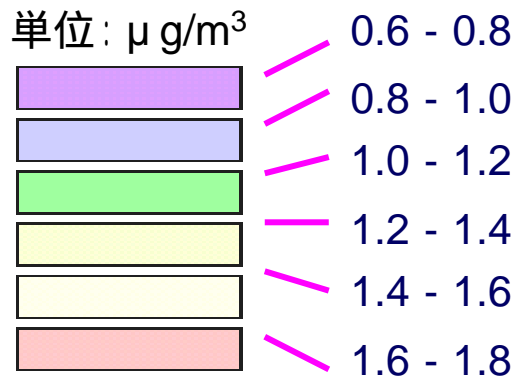
キシレン 刺激性など

リスク

= 有害性 × 曝露量(体に取り込む量)

有害性が多少大きくても曝露量が極小ならば、リスク小
有害性が多少小さくても曝露量が莫大ならば、リスク大

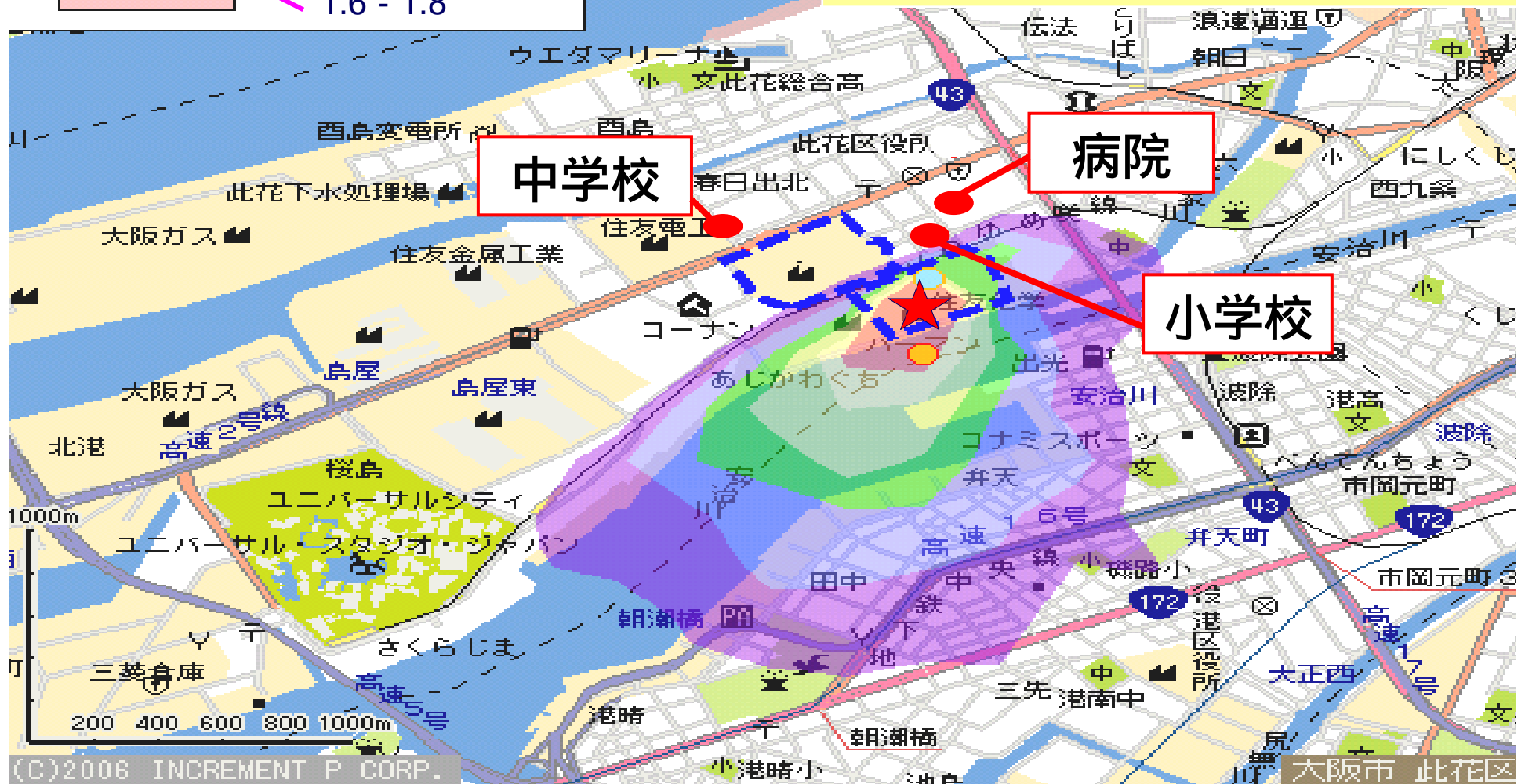
環境リスクに基づいた評価が重要である



対象物質 : キシレン

排出量 : 9600kg

自主基準値 : $870 \mu\text{g}/\text{m}^3$



(C)2006 INCREMENT P CORP.

METI-LIS ver3.0 (経済産業省)

まとめ

環境管理を行う際にはトップダウンだけではなく、
双方向対話も重要である

一方的ではなく、相手の知りたいことを意識することや
わかりやすい情報を提示することで、相互理解を得る
ことが大切である



まず、家族や友達など身近なところから始めたい!!
将来環境を考えて働く上で、Face to Face を活かしたい!!

謝辞

- ❖ 住友化学(株)の皆様、環境省エコインターンシップ事務局の皆様、その他ご協力して頂いた皆様に心より感謝致します。
- ❖ 本当にありがとうございました！





ご清聴ありがとうございました。

